



現代心理学

発達と支援

胎児期
↓
幼児期

監修—田島信元 (白百合女子大学教授)

生涯発達の基盤づくりを達成する胎児期から
幼児期の発達のダイナミズムについて、その様相
や特徴を検証、解説するとともに、発達に不可
欠な支援の原理とあり方について最新の知見を
実験や再現シーン、観察映像、図表やグラフを
用いて分かりやすく示します。

DVD 全10巻 各巻 約30分
価格…各巻 6,000円(税抜6,000円)
対象…大学 教育機関

1 発達の基盤づくりと支援の原理

胎児期～幼児期は、生涯発達のなかでも、自力発達の基盤づくりの段階で、周囲の人々との関わりを活用して自力発達を發揮する体験を行う時期です。発達の原理および生涯発達の過程における胎児期～幼児期の占める位置づけ、その発達の様相について総括的に解説するとともに、発達の個人差が生起する理由や発達障害児への対処を含む、支援の3モデルといった発達支援の原理についても言及します。

2 胎児・新生児の心の世界

四次元超音波装置の誕生で胎児の生活ぶりが目に見えるようになり、胎児が様々な能力を持ち合わせていることが分かってきました。生まれた赤ちゃんは、なぜあんなに“かわいい”のでしょうか? ヒトの赤ちゃんの特徴は何なのでしょうか? 胎児であるのでしょうか? 最新の具体的な映像やデータに基づきながら、胎児・新生児の心理学的世界を解説していきます。

3 胎児・新生児の育ちを見守る支援

科学技術の進展により、“思い通りの子どもを産む”という指向が強まっている中、親は様々なストレスに晒されています。親は健康な子どもを産むことのできる限り注意・努力をすべきですが、同時に周りも出産後の子育てを孤立させず、社会全体でなすべき「大切な仕事」と捉える発想を持ちたいものです。胎児期・新生児期における支援として、母親の生活のありかたや胎教の誤解など、現状を踏まえて解説します。

6 幼児の認知発達と自己コントロール

人間の認知的行動には、認知的機構の発達のみによるのではなく、それをうまく働かせる知識や技能の獲得が必要となります。幼児期の認知発達は、認知の仕組みの発達とその仕組みを使いこなす行動の発達とに分けて考える必要があります。このあたりのアンバランスが幼児期の行動を理解する上で重要であり、行動観察をしていて面白く感じられるところです。表象、記憶、概念の発達などについてこのような観点から見ていきます。

4 乳児の発達とコンピテンスの発揮

乳児期では、コンピテンスが物的環境、社会的環境に向けられ、養育者との基本的信頼感を形成、表象能力を獲得していきます。随伴性探知能力が、どのように知的能力を構成していくか、ピアジェ理論に基づいて跡づけます。第1次相互主観性として養育者との間に情緒的絆が形成され、新たな第2次相互主観性、三項関係が成立していくことの意義をトマセロの文化学習論に基づいて考えます。

7 幼児の社会性の発達と人間関係のひろがり

幼児期は対人関係が広がりを見せる時期です。コミュニケーションスキルが身に付き、様々な関わりや遊びの経験を重ね、基本的な社会性や情動が発達していきます。幼児期の子どもが周囲の人と関係を広げていく様子に焦点を当て、他者との関わりが遊び、自己意識の発達にどのように繋がっていくかを見ていき、自己統制能力がどのように形成されていくのか、言語能力や認知能力の発達とも連動させながら具体的に取り上げていきます。

9 乳幼児期の保育実践の原理と展開

保育所・幼稚園において、子どもは周囲の環境(人・物・場・空間)に主体的に関わりながら様々なことを学んでいきます。ある保育所の保育の様式を通して、子どもの主体的活動を保育者が援助するとは具体的にどのようなことなのかについて、“子どもが集中して遊べる環境”“保育者の願いが込められた環境”“人的環境としての保育者”“「遊びを援助する」ということ”“保育におけるねらいと評価”の5つの視点から紹介します。

5 乳児の発達を支える母親のまなざし

乳児が有能性を發揮するためには、他者との情動的な結びつきが不可欠であり、母親の眼差しと振る舞いは、赤ちゃんの心身の発達を支援する最も重要な働きをします。乳児-物-人との関係を二項関係から三項関係への発達として捉え、乳児が人や物と関わる体験過程の変化を紹介しながら、母親(養育者)の行動には乳児の発達を支援する様々な仕組みが備わっていることを解説します。

8 幼児の言語発達とコミュニケーションの深化

幼児期は、家庭や園、近隣などの場面などで様々な他者と出会い、認知面や社会面などの経験を広げていく時期と言えます。そうした他者とのコミュニケーションを媒介する言語の発達を見ていきます。言語獲得の理論、言語発達過程、言語の機能としてコミュニケーションと思考について概説するとともに、子どもが言語を獲得する際に、養育者をはじめとする周囲の他者がどのような支援を提供するかについても触れます。

10 乳幼児期の発達障害とその支援

保育所や幼稚園は発達障害児の支援の入り口にあります。知的な遅れはなくても、その子どもが、周りの世界をどのように理解し、どのように感じ取っているのか、を知ることは支援の第一歩です。乳幼児期の発達障害児の特性に合わせて、遊びや生活を通した支援はどのようになされるべきか、発達障害の実際やその支援の実際を見ながら、発達障害への理解と適切な支援のあり方を考えていきます。